

【エクアドル内政・外交：2023年12月】

1 内政

(1) キト市創立489周年

6日、キト市創立489周年式典が開催され、ノボア大統領夫妻、クロンフレ国会議長、ムニョス・キト市長などが出席した。ノボア大統領は、キト及びエクアドル全体の福祉及び発展のために務めることを約束する、自分の政権は、エクアドルのための政権であって、いかなる勢力に反対するものではないことを改めて確認すること等述べた。

(2) 新たな汚職疑惑

ア 検察庁は、司法、警察、その他公的機関関係者を結ぶ組織犯罪ネットワークの疑惑を調査してきた結果として、12月13～14日にかけて、ウィルマン・テラン司法評議会議長を含む31名を逮捕したことを明らかにした（「メタスタシス事件」(Caso Metástasis)）。検察の調べによると、同議長は、かつて国家司法裁判所裁判官を務めていた際に犯罪組織から賄賂を受けていたり、組織犯罪に荷担した疑いがあり、そのほかに逮捕されたものの中には、裁判官、検察官、警察官、刑務所組織(SNAI)の職員、弁護士等が含まれている。

イ 21日、テラン司法評議会議長は同職を辞職した。

(3) 統治副大臣の任命

14日、キリスト教社会党(PSC)所属の前国会議員であるエステバン・トーレス氏が統治副大臣に任命された。同副大臣は、中央政府と国会、社会セクター及び地方政府間の政治的調整が期待される。

(4) ノボア大統領の支持率に関する世論調査

19日、世論調査会社コムニカリサ社は、12月12～13日実施した世論調査結果を発表し、ノボア大統領の支持率は69.2%となった（不支持は13.5%、分からないは17.3%）。

(5) 国会における緊急法案の審議

ア 20日、国会は、ノボア大統領のイニシアティブで政府が提出した緊急経済法案を可決した。国会における審議で、政府原案は一部修正されたものの、若者の雇用増、税收増、投資を呼び込むためのインセンティブ付与等、原案の骨格は維持されたまま、可決された。

イ 21日、国会は、緊急経済法案に続き政府が提出したエネルギー競争力法案の審議に入った。同法案は、各セクターにおける再生可能エネルギーへの移行を促すことを主な目的としている。

(6) 刑務所の新設

21日、パレンシア統治兼内務大臣は、ノボア大統領が掲げる治安総合対策(フェニックス計画)の一環として、最新の警備システムを備えた刑務所をパスタサ県及びサンタ・エレナ県に新設する計画を発表した。

2 外交

(1) ノボア大統領の国連安全保障理事会出席

7日、12月の国連安全保障理事会議長国としてエクアドルは、国際組織犯罪をテーマとする安保理閣僚級の公開討論を主催し、ノボア大統領が出席し演説を行った。同大統領は、中南米地域や他の地域は、組織犯罪と暴動の狭間に生じる様々な事態に苦慮しており、このような脅威が不安定な状態を招き、国境紛争や地域の緊張をもたらしている旨、また、自身の政権が暴力の削減に取り組んでいくこと、国境を越えた犯罪との闘いには、国境を越えた対応が必要となる、そのため、国際社会からの支持と協力を得ることが自身の任期中の優先事項の1つである旨述べた。

(2) ノボア大統領のアルゼンチン訪問

12月9～10日、ノボア大統領は亜を訪問し、ミレイ亜大統領就任式に出席した。同大統領は、ミレイ大統領を表敬訪問したほか、ウクライナ、パラグアイ、ウルグアイ及びチリの各国首脳とも会談した。また、同行したソメルフェルド外相は、10日、イスラエルのコーヘン外相と会談し、二国間の重要な協力関係について意見交換した。

(3) アバッド副大統領の着任

10日、アバッド副大統領は駐イスラエル大使としてテルアビブに着任した。26日、同副大統領兼駐イスラエル大使は、ヘルツォグ・イスラエル大統領に信任状を捧呈した。

(4) ソメルフェルド外相の米国訪問

13日、ソメルフェルド外相は米国(ワシントン)を訪問し、ブリンケン国务長官と会談した。同会談では、二国間関係の重要性、特に、安全保障、ファイナンス及び雇用創出について協議が行われた。また、エクアドル及び地域を脅かしている国境を越えた犯罪やマネーロンダリングに対峙していくための協力の重要性が確認され、ソメルフェルド外相は、国内の組織犯罪と闘うためには、米国からの安全保障面での協力と支援がこれからも必要であることを強調した。また、ソメルフェルド外相は、ワシントン滞在中、アルマグロOAS事務総長と会談し、さらに、テレサ・レジャー・フェルナンデス連邦議員(ニューメキシコ州選出)と投資、移住を回避するための雇用機会の創出等について意見交換した。

(5) ソメルフェルド外相の国連安全保障理事会出席

ア 15日、ソメルフェルド外相は国連安保理に出席し、小型武器の違法取引をテーマとした公開討論の議長を務めた。同外相は、小型武器の問題に対処していくためには、グローバルで効果的な措置を講じていく必要がある、違法武器取引に対処する既存のメカニズムの履行、新たなテクノロジー、最後に、女性と児童への影響の3つの側面への対応が鍵となる旨述べた。また、国際組織犯罪に繋がる違法武器取引を回避するため、国際協力が重要となることを強調した。

イ NY滞在中、ソメルフェルド外相は、グテレス国連事務総長、米、中等の国連常駐代表と個別に会談したほか、在NY総領事館及び在ニュージャージー総領事館の領事と会談し、領事サービス等について意見交換を行った。

(6)ホルヘ・グラス元副大統領のメキシコへの政治的庇護申請

ア 17日、ホルヘ・グラス元副大統領が在エクアドル・メキシコ(以下、墨)大使館に逃亡する事案が発生した。検察庁は、16日、国家警察庁長官に対し、グラス元副大統領の身柄確保とキト市にある検察庁施設への移送を求めていた。17日、エクアドル外務省は、グラス元副大統領が墨大使館に入ったことを確認したこと、また、エクアドル検察庁の要請が実施されるよう、墨政府との間で必要な措置を講じていくことを明らかにした。

イ 19日、グラス元副大統領の弁護士フランコ・ロール氏は、グラス氏はエクアドル当局によって逮捕される条件はそろっていない、そのような中、逮捕される事態となれば、グラス氏の身は危険に脅かされ、死に追いやられる危険がある旨述べ、1954年の外交的庇護条約(カラカス条約)に基づき、墨政府に外交的庇護を求めるつもりであると述べた。20日、グラス元副大統領は外交的庇護を墨政府に正式に要請した。

ウ 22日、エクアドル外務省は本事案に関する報道発表を発出し、グラス元副大統領の司法状況を説明した国家裁判所及び検察庁作成の文書を墨政府に提出したことを明らかにした。

(7)2024年イベロアメリカ・サミット

21日、エクアドル政府は、第29回イベロアメリカ・サミットを2024年11月にクエンカ市で開催することを発表した。同記者発表には、ノボア大統領、ソメルフェルド外相ほかが出席し、同外相は、議長国として、様々なプロジェクトを実施していくために、閣僚級会合、各種フォーラム及び事務レベルの会合を開催していく、特に、若者の雇用創出が主要テーマの1つになる旨述べた。(了)